

マ リ

主要データ

国名(英名)	マリ共和国(Republic of Mali)
面積(km ²)	1,240,000
海岸線延長(km)	0
人口(百万人)	12.3(2008年7月推定)
人口密度(人/km ²)	1.0
GDP(10億US\$)	13.6
一人当りGDP(US\$)	1,100
一人当り銅使用量(kg/人)	N/A
主要鉱産物: 鉱石(千t)	N/A
主要鉱産物: 地金(千t)	N/A
鉱業管轄官庁	鉱山省(Ministry of Mines)
鉱業関連政府機関	地質鉱山局(DNGM: Direction Nationale de la Geologique des Mines)
鉱業法	鉱業法(Mining Code 1999)
ロイヤルティ	有
外資法	N/A
環境規制法(環境影響調査制度、環境・排出基準の有無等)	N/A
鉱業公社	N/A
鉱業活動中の民間企業	Anglo Ashanti 社(南ア)、Randgold Resources(南ア)
近年の鉱業関連問題(資源ナショナリズム、労働争議、環境問題等)	特になし
2007年のトピックス	・2006年にNevsun Resources社によりTabakoto鉱山の生産が開始されたが、実際の品位が予想品位よりも低かったことから、2007年9月に操業を中止した。

1. 鉱業一般概況

1999年に鉱業法の改正が実施され、多くの外国資本を引付け、探鉱活動が活発に行われるようになった。この結果、金鉱山が相次いで誕生することとなり、2001年におけるMorila、Yatela鉱山、2005年においてはLoulo鉱山が生産を開始した。2006年にTabakoto鉱山が生産を開始したが、採掘鉱石の品位が予想よりも低かったことから、2007年9月に操業を中止した(2008年5月にAvion Resources社に売却)。2005年において、マリで探鉱を含む鉱業活動を実施している企業は15社を数えており、金鉱業は鉱業生産額全体の95%を占めている。金は、綿花に次ぐ主要輸出品であり、主な外貨獲得源とな

っている。また、南アフリカ、ガーナに次ぐアフリカ第3位(2007年)の産金国となっている。

金鉱山の探鉱、開発は、南西のビリミアン系グリーンストーン帯、ブグニ、Kenieba、およびシカソの近くのマリ南部に焦点を合わせて行われている。

金以外では、石膏、石灰石、大理石及び岩塩等の鉱産物を産出しているものの、これらについては、主としてインフラの未整備のため十分に新規開発がなされていない状況である。

2. 鉱業政策の主な動き

鉱業法、税制などの2007年における大きな動き、変更はない。

3. 主要鉱産物の生産・輸入・消費・輸出動向

データ無し。

4. 鉱山会社活動状況

データ無し。

5. 鉱山・製錬所状況

(1) 生産・開発状況概要

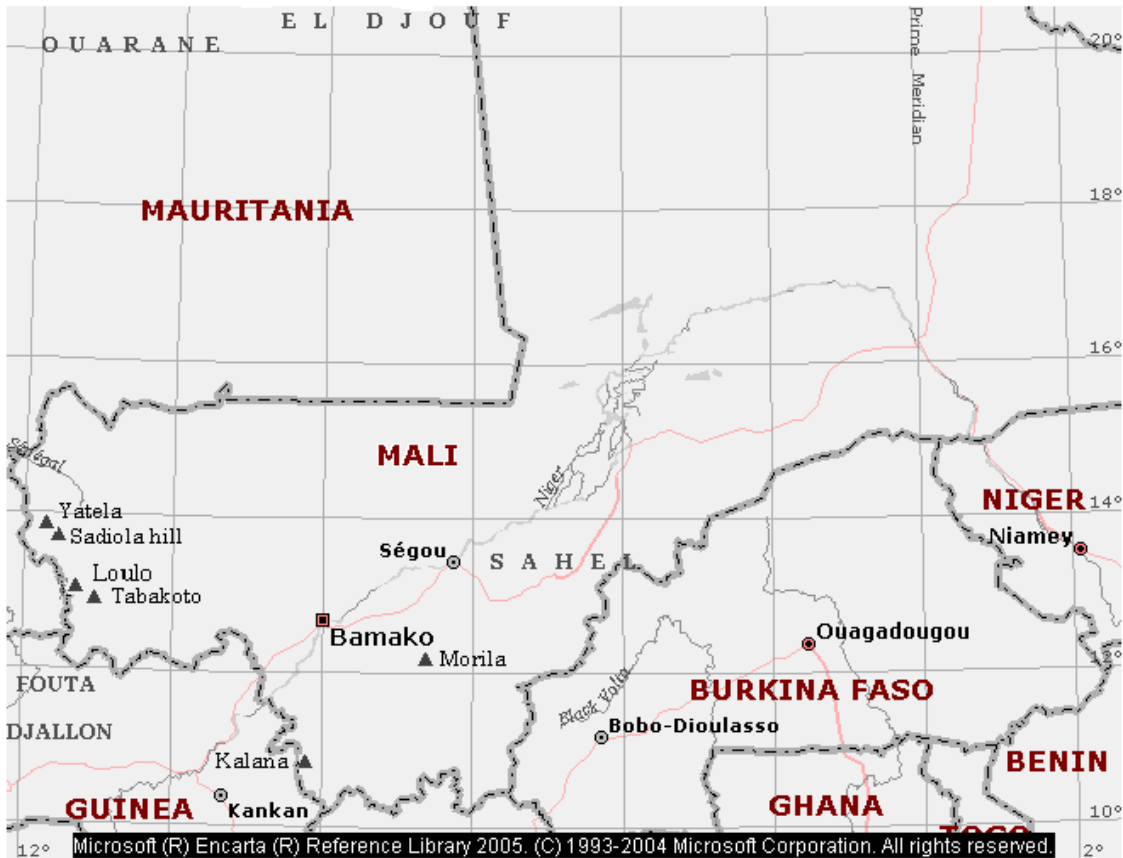
<稼行鉱山>

2007年の金の生産は、前年から7%増の57t(2006年53t)(Raw Material Data)となった。2006年にTabakoto鉱山が操業を開始したものの、予想平均品位Au5.26g/tを実際には平均品位Au3.41g/tと大幅に下回ったため、2007年9月に操業を休止した。2008年5月、同鉱山を所有するNevsun Resources社はAvion Resources社にTabakoto鉱山及び隣接するSegala探鉱プロジェクトを売却した。

鉱山生産状況

(単位：t)

鉱山名	鉱種	権益 (%)	2006年 (生産量)	2007年 (生産量)	備考
Sadiola hill 鉱山	金	Anglo Ashanti 38%, Iamgold 38%, マリ 政府 18%、IFC6%	15.5	11.4	
Morila 鉱山	金	Randgold Resources 40%、Anglogold Ashanti 40%、マリ 政府 20%	16.1	14.0	
Yatela 鉱山	金	Anglo Ashanti 40%, Iamgold 40%, マリ 政府 20%	10.9	9.3	
Loulo 鉱山	金	Randgold Resources 80%、マリ政府 20%	7.5	8.2	
Kalana 鉱山	金	Avnel gold mining 80%、マリ政府 20%	0.7	0.8	
Tabakoto 鉱山	金	Avion Resources 80%、マリ政府 20%	1.2	2.3	2007年9月 休止



▲ 操業鉱山

鉱山位置図

<休止鉱山>

【Tabakoto 金鉱山】

2006年 Nevsan Resources 社(加)は同鉱山の生産を開始したが、鉱石の品位が予想より低かったことから2007年9月に操業を休止し、2008年5月、Avion Resources 社(加)に売却した。

Avion Resources 社では、今後、ボーリング調査と再サンプリングを実施し、2008年第4四半期までに調査を完了させ、新しい鉱山計画の下で2009年後半の再開を目指している。

<開発待ち鉱山>

【Segala 金鉱山】

Tabakoto 鉱山とともに Avion Resources 社が実施するプロジェクトである。このプロジェクトは Tabakoto 鉱山の北方近傍に位置し、鉱床の地表部分の FS が完了していたが、Tabakoto 鉱山とともに売却され、再度、探鉱ボーリングが

実施されている。

【Syama 金鉱山】

Resolute Mining 社(豪)は、休止中であった同鉱山の FS を2005年4月に完了し、2006年4月に同鉱山露天採掘の再開発を正式に決定し、FSの結果によれば、鉱量約200t、品位3.36g/t、マインライフ6.5年、年産金約7tの鉱山となる予定であり、開発資本コストは120百万US\$を計画している。2007年4月、マリ大統領を迎えて、着工式を行った。

(2) 探鉱状況概要

マリにおける金の探査は、現在、多数の企業により活発に行われている。主要な企業として、Randgold Resources 社(南ア)、Axmin 社(加)、Resolute 社(豪)、Avnel gold mining(英)、Great Quest Metals 社(加)、Estruscan Resources 社

(加)、North Atlantic Resources 社(加)、Robex Resources 社(加)などが、南部、西部エリアで探鉱を実施している。

6. 我が国との関係

記載すべき事項は特に無し。

7. その他トピックス

特になし。

(2008. 7. 15/ロンドン事務所 竹谷 正彦)